

掲載号	7 月 2 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 町田剛史
題名	ダイコンひげ根黒変症は品種で軽減できます	
備考	【表説明】写真1. 可食部に侵入したダイコンひげ根黒変症 図1. ダイコンひげ根黒変症発生の少ない有望品種	

【本文】

ダイコンひげ根黒変症は、写真1のように「ひげ根」が腐敗・黒変する障害で、症状が進むと可食部の深くにまで侵入します。県内でも多くのダイコン産地で発生が認められ、早急な対策が求められています。

異なる栽培時期に同じ数品種で発生を調査したところ、栽培時期による差はみられなかった一方で、品種による差は明確でした。本症の軽減には、品種による対策が適していると考えられたため、播種時期ごとに発生の少ない品種を選定しました。

露地栽培の9月上中旬播きでは、慣行品種の発生株率は75~97%と高い結果でした。これに対し、「TDA-732」、「夢誉」が10%以下と実用的には問題ない程度で、収量や品質も優れていました。また、9月下旬播きの慣行品種である「冬みね」の発生株率は8%であり、本品種が適していました。

トンネル栽培では、生育中に厳寒期を越えるために耐寒性、低温伸長性、晩抽性等を併せ持つ品種が求められます。秋播きでは、慣行品種で本症の発生株率は75%であったのに対し、「RA256」が8%、「春省武」、「初誉」が11%と低い発生率でした。根長や空洞の発生等も考慮すると、「春省武」が適していました。春播きでは、慣行品種の発生株率が85%以上と高かったのに対し、「MKS-R320」、「RA256」で3%、「春神楽」で14%と低い発生率でした。裂根の発生やばらつきを考慮すると、「RA256」、「春神楽」が適していました。

ひげ根黒変症は品種による発生の差が大きく、図1のような発生の少ない品種の利用が現実的な対策です。一部の種苗会社では、本症の発生を念頭に置いた育種も開始しており、今後さらに有望な品種の育成も期待できるようになってきました。

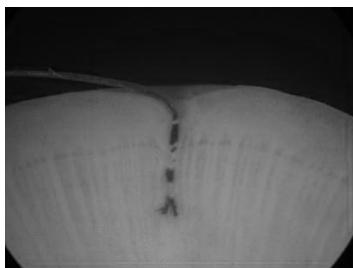


写真1. 可食部に侵入したダイコンひげ根黒変症

有望品種	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
TDA-732 (タキイ種苗) 夢誉 (みかど協和)	●	●	■	■	■	■	■	■	■
冬みね (サカタのタネ)	●	●	■	■	■	■	■	■	■
春省武 (雪印種苗)			○	●	■	■	■	■	■
春神楽 (タキイ種苗)				○	●	■	■	■	■
RA256 (雪印種苗)				○	●	■	■	■	■

図1. ダイコンひげ根黒変症発生の少ない有望品種

注) 凡例 ●: 播種、■: 収穫、○: トンネル被覆